

銚子・外川港の街づくり

絵と文・熱田親憲 題字・熱田素華

紀伊・房総

くろしお物語

◇27◇

2間半で長さ21間の船引場46隻分を区画し、漁師や商人とその家族が住む町が作られていった。

1661(寛文元) 住者が増えて、外川港年、銚子の外川港本浦 新浦の二期工事も3年の築港で二期工事が終わると、紀州からの移

き上げる場所として幅人、水主や干鯛労働者

川浦は八手網54張、網主54軒を中心に干鯛商人の方だったからだ。後に「外川千軒」と言われるほどの街は方格状の形をなしている。インフラ整備に当たり「銚子木国会史」に次の記載がある。(抜粋)

業推進は今日でも学ばねばならぬと云う。最近、外川港と外川町の町並みを訪ねる機会を得た。まずは外川ミニ郷土資料館を訪ね、86歳の女性館長に説明をいただいた。外川はイワシとクラマで大繁盛した町です。町にはこの世にあるものは全て集まっています。だから何でも買えたヨ」と昭和の生き証人らしく誇りげに



第4-7図 高神村外川港の築港形態 A-Bは高神新浦(第4-9図)の位置を示す。○印は「筋道い」の部分を示す。『地誌』(銚子市市役所所蔵)による。

石畳に見る漁村の繁栄

(イ) 港の船引場の内側に海岸線に平行な道路を作る。

やすいように居住者が固まって住む配慮がされており、家族制度の延長のようだが合理的だ。

た。資料館を出て少し坂を上ると、銚子電鉄の終点・外川駅の前に出た。NHKドラマ「滞つくし」のロケ地であり、ドラマの舞台の昭和時代をほうふつさせる、レトロな外川町のシンボルだと思えた。

(ロ) 丘の上の干鯛場と港とを上下輸送する産業用の中央道路(石畳)を作る。

崎山治郎右衛門は6人の工事犠牲者に心を痛め、町の一角に浄土真宗の西方寺を建立。住職には事業顧問の僧了意を推挙した。彼は事業の完成を見届けて紀州に帰り、関係者の霊を弔って念仏の日々を送ったという。彼の合理的で人に優しい事

路についていた。

(ハ) 中央道路の左右にこれと平行な道路を作る。

(ニ) 宅地は海から見ると南向きのひな壇が並んでいるようにする。そのため海側に石垣を築きその下に海岸に平行な生活道路をつ

くると、踏み磨かれた石畳に漁村の300年の歴史が詰まっていることを感じながら帰